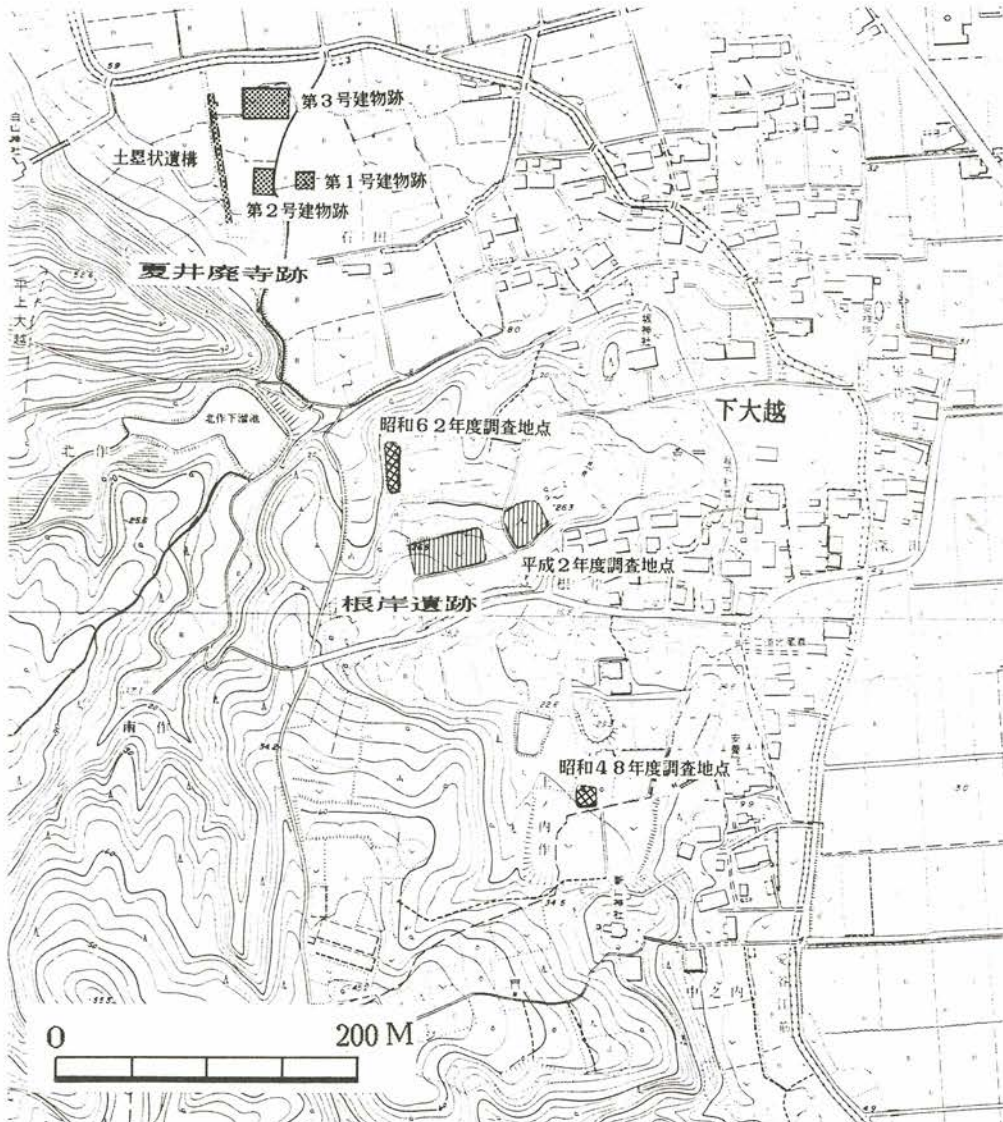


発掘ニュース

第 30 号
 平成 3 年 2 月 18 日
 発行 財団法人 いわき市教育文化事業団
 TEL 0246 (29) 0391

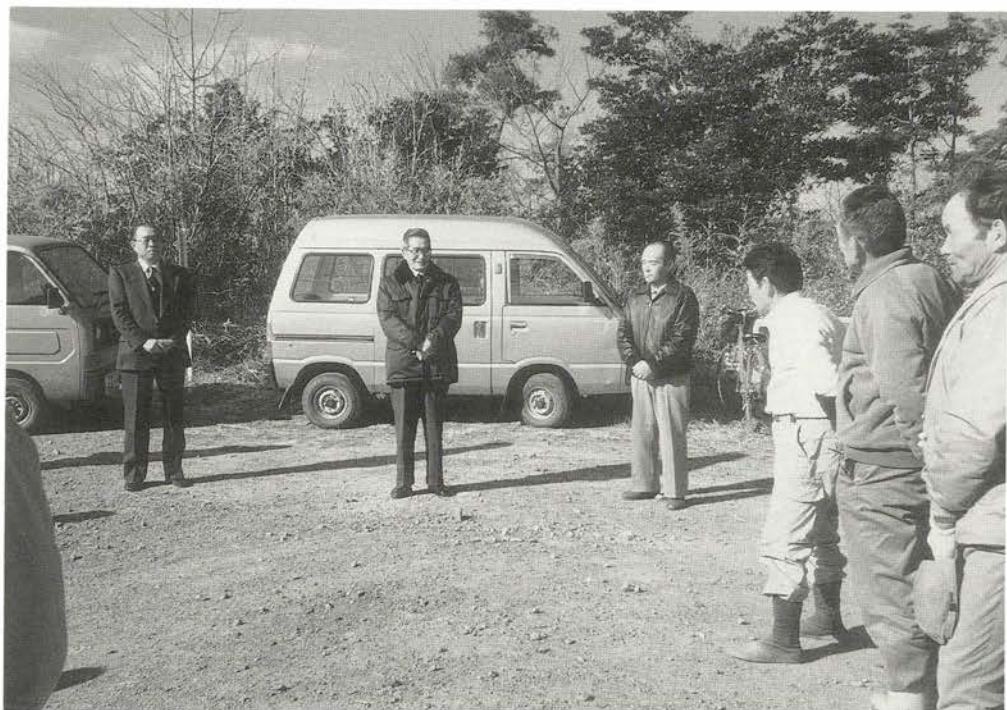
根岸遺跡第 1 次範囲確認調査

——古代郡衙推定地の調査——



古代磐城郡衙（夏井廃寺跡と根岸遺跡）推定地と根岸遺跡第 1 次調査の位置

とじておきましょう



飯島護教育長をむかえての調査起工式（1991年2月4日）

調査のはじまり ネシイキ 根岸遺跡は福島県いわき市平下大越字根岸・
ナツ
上ノ内作，藤間字中之内・ドウボウジ地内にあります。北方の石田地区（夏井
ハイツ クガト
廃寺跡）とあわせて古代磐城郡の郡衙跡と推定されています。昭和48年度の
調査では、5間4面の掘込地業をもった礎石建物跡（倉庫跡）が検出され、全
ホコミチヨウ ソキ ソコアト
国的に注目されました。また、昭和62年度には、墓地拡張に伴う調査によっ
て、同じような建物跡2棟が確認されています。

ハンイカニチョウ
今回の範囲確認調査は文化庁の補助を受けて、根岸遺跡の位置する台地（観
音山および長者平）の正確な測量（500分の1）と一部トレンチ調査を実施
します。トレンチ調査は、俗称観音山の頂部（平坦部）に位置する休耕畑地の
1,982㎡を対象に行います。その地点は、県指定史跡塔跡の南へ約250
トウアト
m、東へ約100mのところに位置しています。調査は、平成3年2月4日か
ら2月末日までの約1箇月間の予定で行われます。



第2号トレンチの調査状況

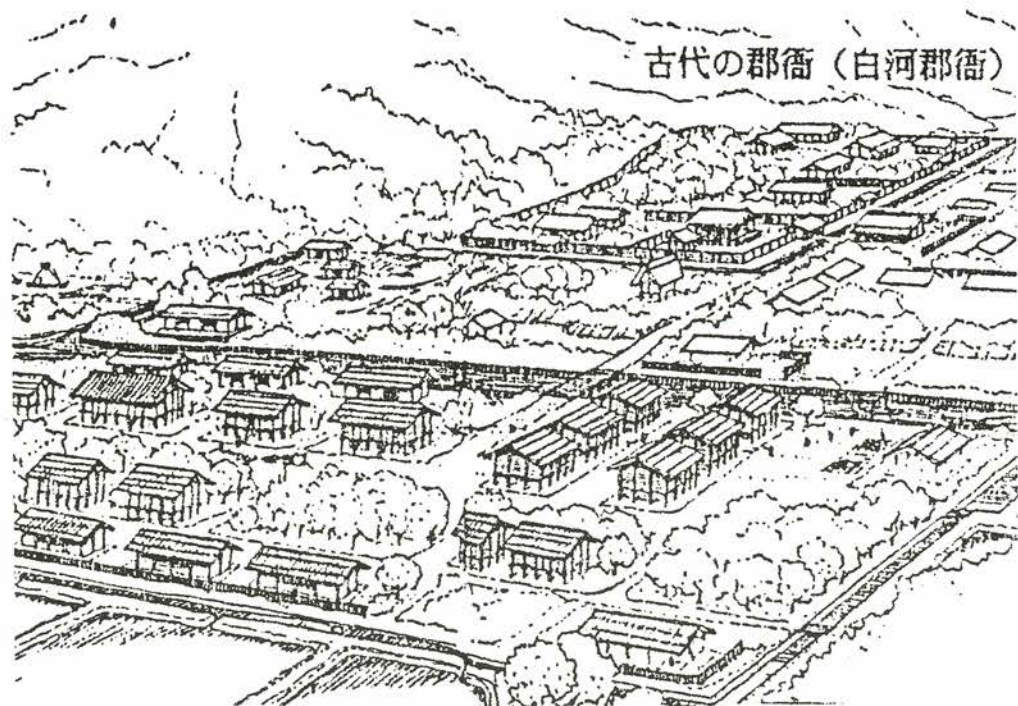
発見された遺構・遺物 現在までの調査では、柱穴・
ミヅト ｸﾞｱナｼヨウｲﾝウ ハヅ ｽｷ ﾄﾞｷ ｶﾗ ﾌﾙｲｸ など
 溝跡・竪穴状遺構などの遺構と、土師器・須恵器・陶器・瓦・フレイクなど
ｷｯｸﾞﾎﾝﾗ
 の遺物が発見されています。柱穴は、その並び方から掘立柱建物跡になると
 思われ、なかには約2m四方もの大
 きな柱穴もあり、掘込地業と呼ばれ
 る基礎固めがされています。

遺物は畑の耕作によって小さな破
 片になっていますが、土師器や瓦片
 などは、奈良・平安時代のものと思
 われます。

まだ調査の途中ですが、今後の成
 果が期待されています。



第1号トレンチの遺構群



郡衙のようす(復原図)岩波書店『日本古代を発掘する』より

郡衙とは 奈良時代には、地方を治めるために全国に「国」が置かれ、さらに国の下には「郡」が、郡の下には「郷（里）」が置かれました。そして、国・郡・郷（里）にはそれぞれに、その中心となる役所が設けられました。この役所は官衙と呼ばれ、そのなかでも郡の役所は郡衙と言います。

郡衙にはいくつかの建物が建てられており、それぞれの建物ごとに役目が決まっていたようです。文献によると、郡庁・正倉・館・厨家などの建物が建てられ、周辺には塀などがめぐらされていたと思われます。

いわき地方は、陸奥国の磐城郡と菊田郡に相当し、根岸遺跡は磐城郡の郡衙跡と推定されています。以前に根岸遺跡で発見された建物跡は、炭化した米と一緒に出ていることから、税として集めた米を納める正倉ではないかと考えられています。今回の調査でも同じような規模の建物跡の発見が予想され、今後、磐城郡衙の様子が少しずつ解明されていくことでしょう。